

改定日：2005年10月01日

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 ハイライトMT - 90  
 会社名 日産化学工業株式会社  
 住所 東京都千代田区神田錦町3 - 7 - 1  
 担当部門 化学品事業本部 基礎化学品事業部 環境化学品部  
 電話番号 03-3296-8040  
 FAX 番号 03-3296-8360  
 整理番号 1123107111-1

### 2. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

化学名または一般名	含有量	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
トリクロロイソシアヌル酸	99%以上	C <sub>3</sub> N <sub>3</sub> O <sub>3</sub> Cl <sub>3</sub>	(5)-1044		87-90-1

### 3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性  
 有害性 飲み下すと有害である。  
 目を刺激する。皮膚、呼吸器を刺激する可能性がある。  
 環境影響 水に溶けると次亜塩素酸を生じ、水生生物に対し強い毒性がある。  
 自然界で徐々に分解される。(イソシアヌル酸として)  
 物理的及び化学的危険性  
 分類の名称 通常の取扱いでは火災の危険性は極めて低い。  
 酸化性物質

### 4. 応急措置

吸入した場合 新鮮な空気のある場所に移動させ安静にする。  
 必要に応じて医師の診断を受ける。  
 皮膚に付着した場合 大量の水または微温湯を流しながら洗浄する。  
 痛みが残る場合は医師の処置を受ける。  
 目に入った場合 直ちに清浄な水で15分以上洗浄する。  
 速やかに眼科医の手当てを受ける。  
 飲み込んだ場合 直ちに医師の処置を受ける。

### 5. 火災時の措置

消火剤 散水  
 水噴霧  
 泡消火薬剤  
 リン酸塩類粉末消火薬剤  
 乾燥砂  
 膨張ひる石または膨張真珠岩  
 火災時の特定の危険有害性 燃焼したとき、刺激性または有害なガスを生じるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように呼吸保護具を使用する。  
 特定の消火方法 消火作業は可能な限り風上から行う。

消火を行う者の保護

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。  
 関係者以外は安全な場所に退去させる。  
 消火排水はハイポなどで中和する。  
 消火作業では適切な保護具を着用する。  
 火災時には塩素、塩化水素、一酸化炭素、三塩化窒素及び窒素酸化物などを発生する可能性があるため、防毒マスクまたは給気式呼吸用保護具を着用する。

## 6 . 漏出時の措置

人体に対する注意事項

屋内の場合、処置が終わるまで十分な換気を行う。  
 作業者は適切な保護具を着用し、目や皮膚への接触や、吸入を防ぐ。  
 取扱い後は、手洗い、洗顔、うがいなどを十分に行う。

環境に対する注意事項

漏出された製品が河川等に飛散しないようにする。  
 大量の水で希釈する場合、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

除去方法

漏出したものをすくいとり、または掃き集めてポリ袋または蓋付容器などに回収する。

## 7 . 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

適切な保護具を着用し、粉塵を吸い込んだり、目、皮膚、及び衣類に触れたりしないようにする。  
 火気を避ける。過熱したり、摩擦、衝撃を与えたりしてはならない。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。

注意事項

取扱いは、換気の良い場所で行う。  
 取扱い後は、手洗い、洗顔、うがいなどを十分に行う。  
 粉塵の吸入を避ける。

安全取扱い注意事項

酸化性物質であるため、有機物などと接触しないように取扱う。  
 酸性及びアルカリ性の製品との接触を避ける。

保管

適切な保管条件

直射日光を避け、風通しの良い冷暗所で保管する。  
 子供の手が届かないように保管する。  
 火源の近くに保管しない。  
 防湿に留意する。  
 有機物など可燃性物質と一緒に保管しない。  
 酸性物質、アルカリ性物質と一緒に保管しない。  
 開封後はすぐに使用し、開封状態での保管は避ける。

安全な容器包装材料

製品容器のまま保管する。

## 8 . 暴露防止及び保護措置

設備対策

よく換気された場所で取扱うこと。

管理濃度

設定されていない。

許容濃度

設定されていない。

保護具

呼吸器用の保護具

防塵マスク、簡易防塵マスク

手の保護具

保護手袋

目の保護具

保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛けなど

## 9 . 物理的及び化学的性質

製品として

物理的状態

形状	顆粒若しくは粉末状
色	白色
臭い	塩素臭
pH	2.7-3.3 (1%水溶液、25 )

物理的状態が変化する特定の温度 / 温度範囲

液体、気体状態を経ず分解する。

分解温度

約 225

引火点

なし

爆発特性

情報なし

蒸気圧

情報なし

密度

情報なし

溶解性

水に可溶 (1%、25 )

## 10 . 安定性及び反応性

安定性

乾燥状態では安定。水に溶解すると次亜塩素酸を生じる。  
加熱すると分解する。

反応性

酸化性を有する。

危険有害な分解生成物

塩素、塩化水素、一酸化炭素、三塩化窒素及び窒素酸化物などを発生する可能性がある。

## 11 . 有害性情報

急性毒性

経口 LD<sub>50</sub> ラット 406mg/kg<sup>1</sup>

局所効果

目、皮膚、粘膜、呼吸器を刺激する。

## 12 . 環境影響情報

残留性 / 分解性

自然界で徐々に分解される。(イソシアヌル酸として)

生態毒性

魚毒性

TLm48Hr LC<sub>50</sub> ひめだか 1.5ppm

## 13 . 廃棄上の注意

廃棄物の処理は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。  
家庭用廃棄物、ごみまたは他の廃棄物と一緒に廃棄しないこと。

## 14 . 輸送上の注意

国際規制

I C A O、I A T Aの規定に従う。

国連分類

クラス 5 . 1 (酸化性物質類・酸化性物質)

国連番号

2 4 6 8

国内規制

海上：船舶安全法の規定に従う。

航空：航空法の規定に従う。

輸送の特定の安全対策

及び条件

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

## 15 . 適用法令

船舶安全法(危規則)

第 3 条告示別表第 7 酸化性物質類・酸化性物質

港則法

施行規則第 12 条告示酸化性物質

航空法

施行規則第 194 条告示別表第 7 酸化性物質

## 16 . その他の情報

### 引用文献

- 1 : REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCE , 1985-86 EDITION VOL.5 ,  
US DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES , (April 1987)

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成していますが、記載データや評価についていかなる保証をするものではありません。危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。